

平成28年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

平成29年4月30日現在

研究課題名	ロシア正教古儀式派の歴史と文化の総合的研究				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	中澤 敦夫		富山大学人文学部・教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	中澤敦夫	富山大学・教授	ロシア文学・文化史	研究総括者
	2	望月哲男	北海道大学・特任教授	ロシア文学・文化史	研究分担者
	3	中村喜和	一橋大学・名誉教授	ロシア文学・文化史	研究分担
	4	阪本秀昭	天理大学・名誉教授	ロシア史	研究分担
	5	塚田力	通訳業	ロシア文学・文化史	研究分担
	6	下斗米伸夫	法政大学教授	ソビエト史	研究分担

研究成果の概要

本プロジェクトの構成員は、共同研究予算を利用して、2016年5月28日（土）に北大スラブ・ユーラシア研究センター4階大会議室にて開催された、「第5回古儀式派研究会研究集会」に参加した。構成員からの参加者は次の通りである。中澤、中村、阪本、望月、下斗米、三浦、豊川、高橋、生田、福嶋、ヨコタ村上、越野（アドヴァイザー）。

集会では、参加者の中から次のような研究発表がなされた。

塚田力 「1960年代のブラジルにおけるロシア古儀式派」

豊川浩一 「18世紀のロシアにおける民衆運動と古儀式派—プガチョーフ叛乱を中心に」

また、本プロジェクトによって招へいた、ウクライナ科学アカデミー上級研究員（キエフ）のC・タラネツ氏は次の報告を行った。

Таранец С. В. Старообрядчество в социокультурном пространстве Российской империи конца XVII – начала XX века.

さらに、ブリヤート国立大学歴史学科のC・ワシーリエヴァ氏が自主参加して次の報告を行った。

Васильева С. А. Сохранение, трансляция духовного и материального наследия старообрядцев – семейских в условиях трансформации российского общества.

続いて、2016年5月31日（火）に北大スラブ・ユーラシア研究センター大会議室にて研究会が開催され。次の報告が行われた。

阪本秀昭 「ロシア古儀式派教徒の禁欲主義と勤労原理に関する考察—ユダヤ教徒との比較から」

Таранец С. В. Старообрядчество на территории Украины в конце XVII – начале XX века.

研究成果の概要（続き）

Васильева С. А. Государственная модернизация старообрядческих институтов Байкальского региона в имперский, советский и постсоветский периоды.

その後、タラネツ氏は大阪に移動して、2016年6月3日（金）に大阪大学豊中キャンパスにて次の講演を行った。

Таранец С. В. Русские старообрядцы на Украине в XX – начале XXI века.

講演については、塚田力がコメンテーターとして、コメントを行った。

共同研究予算を利用した共同研究は以上だが、各構成員はこの共同研究の成果をふまえて、平成28年度 基盤研究(B)「ロシアおよび在外古儀式派教徒の歴史・民族誌的研究」(研究代表者：中澤敦夫、課題番号 16H03496)による研究の枠組みの中で、引き続き古儀式派の歴史・文化の研究課題に取り組んできた。その成果は、「主な発表論文等」の通りである。

なお、上記研究構成員の他に、本プロジェクトには、次の構成員がいる。セルゲイ・タラネツ(ウクライナ科学アカデミー上級研究員)、三浦清美(電気通信大学・教授)、伊賀上菜穂(中央大学・准教授)、高橋沙奈美(北海道大学・助教)、豊川浩一(明治大学・教授) ヨコタ村上孝之(大阪大学・教授)、宮崎衣澄(富山高等専門学校・准教授)、福嶋千穂(東京外国が大学・講師)、生田美智子(大阪大学・名誉教授)、越野剛(北海道大学・助教：アドヴァイザー)。

また、以上の「古儀式派研究会」の活動については、ホームページ <http://yaois.jp/> で公開されている。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

- ・下斗米伸夫「労働組合論争・再論—古儀式派とソビエト体制の角度から(前半)」(『法学志林』2016年、第2号)、1-52頁。
- ・下斗米伸夫「労働組合論争・再論—儀式派とソビエト体制の角度から(後半)」(『法学志林』第3号、2017年)、219-267頁。
- ・下斗米伸夫「ロシア革命100年、権力と宗教」(『神奈川大学評論』第86号、2017年) 47-54頁。
- ・豊川浩一「ロシア史における民族史研究の意味と問題—バシキール史研究と M.K.リュバーフスキー」『歴史学研究』第946号、2016年7月、44-54頁。
- ・塚田力「ニーコンと古儀式派—17世紀の教会分裂」下斗米 伸夫編著『ロシアの歴史を知るための50章(エリア・スタディーズ152)』明石書店、2016年、pp. 49-57。
- ・ЦУКАДА Цугому. Участие в войнах русских старообрядцев в округе Алтай (Синьцзян-Уйгурский автономный район КНР) // Международные Заволокинские чтения. Сборник 4. Рига, 2016. С. 520-530.
- ・伊賀上菜穂「ロシア極東の古儀式派修道院：D・マーチン氏のフィールドワークより」『なろうど』ロシア・フォークロアの会会報、第72号、2016年4月15日、pp. 43-45。
- ・伊賀上菜穂「電子メールでつながる『三河(さんが)』(トリョフレーチエ)』(上)『なろうど』ロシア・フォークロアの会会報、第73号、2016年10月15日、pp. 34-36。
- ・望月哲夫 Вокруг дискуссии о церковном суде в «Братьях Карамазовых» XVIth Symposium of the International Dostoevsky Society, Univ. Of Granada, June 7-10, 2016 (学会発表)

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

特になし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。